

船舶事故等調査報告書

平成24年6月28日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012長第11号	
事故等種類	衝突（防波堤）	
発生日時	平成24年2月6日 14時40分ごろ	
発生場所	長崎県平戸市田平港西防波堤 田平港西防波堤灯台から真方位147°300m付近 (概位 北緯33°21.7' 東経129°34.5')	
事故等調査の経過	平成24年2月7日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	船種船名、総トン数 油送船 第八 ^{しょうわ} 正和丸、297トン 船舶番号、船舶所有者等 133942、株式会社三洋海運商会	
乗組員等に関する情報	一等航海士、五級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	本船 船首ブルワーク部分に亀裂を伴う凹損、船首材曲損 防波堤 コンクリート剥離	
事故等の経過	本船は、船長及び一等航海士ほか2人が乗り組み、平戸市平戸島東方沖の平戸瀬戸を手動操舵により約10ノットの速力、真方位約028°の針路で航行中、単独で船橋当直中の一等航海士が居眠りに陥り、予定変針場所を通過して田平港西防波堤灯台に向けて航行し、平成24年2月6日14時40分ごろ同防波堤に衝突した。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北東、風速 約3～4m/s 海象：潮汐 低潮期	
その他の事項	<p>一等航海士は、右手で操舵スタンドをつかみ左手で舵輪を握り、立って操船していた。</p> <p>一等航海士は、本事故の前日、余り眠れず、本事故当時は少し睡眠不足を感じていたところ、周囲に他船が見当たらなかったことから気が緩んだ。</p> <p>船長は、ふだん、平戸瀬戸を航行する際は自ら昇橋していたが、本事故当時は平戸瀬戸通過はもう少し後だと思い、自室で休息していた。</p> <p>本船は、5分ごとに警報が鳴る居眠り防止装置を設置していたが、一等航海士が警報を止めてから次の警報が鳴るまでの間に田平港西防波堤に衝突した。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、平戸瀬戸を手動操舵により北北東進中、単独で船橋当直中の一等航海士が居眠りに陥ったことから、予定変針場所を通過して田平港西防波堤に向けて航行し、同防波堤に衝突したものと考えられる。</p>

		<p>一等航海士は、睡眠不足の状態であったこと、及び周囲に他船がいなかったことから気が緩んで居眠りに陥ったものと考えられる。</p>
原因		<p>本事故は、本船が、平戸瀬戸を手動操舵により北北東進中、単独で船橋当直中の一等航海士が居眠りに陥ったため、予定変針場所を通過して田平港西防波堤に向けて航行し、同防波堤に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考		<p>本船は、本事故後、赤外線式の居眠り防止装置を設置した。</p>